

国土学事始め



大石久和さん

国土技術研究センター理事長

先進国の仲間入りを目指している中国は、高速道路などの社会資本整備にどのような姿勢でのぞんでいるのでしょうか。中国は、国家戦略としてアジアでの政治的・経済的ヘゲモニーをとろうとしていることは間違いありません。そのためにも基本的な資源である電力と水の確保に向けて三峡ダムを始めとする巨大ダム開発などを、国力をかけて

進めています。

上海港の巨大コンテナ港化を、釜山を上回る規模にするべく進めているのは、アジアにおける経済覇権を確立するためでしょう。わが国よりはるかに経済規模の小さい中国が、はるかに大きな規模の港

次世代に効率的で安全な国土を

湾を持つとういうのです。

大洋をわたる物流は、近年巨大なコンテナ船に担われるようになりました。このような港湾の時代になると、営々と港湾整備をして、アジアでもっとも効率的な港を造り上げたわが国は、その卓越性を保てなくなりました。日本に着くべき荷物が、港湾整備の遅いから上海港にまわり、わが国には何日か遅れで小規模

端末船で、日本の各港に運ばれるという戦慄すべきことが現実になろうとしています。

高速道路も事情は似ています。わが国が民営化議論という採算性に特化した視点で高速道路を見つめていたとき、中国は国土の整備理念などで

高速道路の整備のあり方を考えていたのです。

今年1月、中国は今後の高速道路整備計画を発表しました。「近い将来、アメリカに次ぐ高速道路大国を造り上げる。それは中国国土の発展にとって最も有効な方法である。交差道路があり人や自転車がまじる一般道路よりも、高速道路に自動車交通を分担させる方が、交通効率がい

ため土地も効率的に使える。排ガスなどの環境にもいいし、交通事故も大幅に減らせるからだ」というものです。最先進国のアメリカも、急速に経済を拡大する中国も、ハイウェイを国家運営の戦略と位置づけているのです。

財政の厳しくない国などありません。しかしその中で、国土への働きかけに努力しているのです。現世代の稼ぎを現世代だけで使い切った過去の世代も国もないのです。少子化するからこそ、より効率的で安全な国土を残す努力が、この世代には求められています。国土に蓄積した道路などの装置群でこそ、国際競争力を確保できるこの時代に、次世代への怠慢は許されません。